

今月のコラム

第1回 “人とのふれあい”

宿ライン会員の「庭園の宿 松溪苑 佐藤様」よりご投稿を頂いたものをご紹介します。佐藤様にはいつも季節の便りをお送り頂き有難う御座います。

毎回拝読しながら関心させられることばかり、受け身の宿泊業界にあって何時も攻めの姿勢で施設、地域の情報発信、業界でもっとも不足していた事をいち早く実行され弛まぬご努力に敬意を表します。

今回は過去新聞に掲載されたコラムとも言うべきか、今の日本の実情、また欠けていること、宿泊経営者の立場から見た遣り甲斐、街づくりなど佐藤様が出稿されたものを連載いたします。

第1回 人とのふれあい

第2回 あいさつ

第3回 子供の教育

第4回 まちづくり

第5回 旅って・・・？

最終回 夢

第1回 “人とのふれあい”

自殺者が増え、離婚率が高まっている現状は、どこからきているのでしょうか。平成2年にバブル崩壊してもう10年以上が過ぎ、日本経済というよりも地域経済、もっと考えれば家計のやりくりも厳しくなっています。それに伴って犯罪が多発し、政治も不安定で明日の自分に自信がなくなり、ひとつの悩み事を考えて毎日の生活を送る中、その悩みに全てを揺り動かされ、それまで順調に行っていた事もなぜか暗礁に乗り上げてしまうのではないのでしょうか。

人間誰でも、悩みを深刻に考えれば考えるほど良い方向になるとは思えなくなり、自分からその大きな穴に身を投じることになっているようです。そうすると、どんな事になるか？夫婦喧嘩が起き、子供に八つ当たりをし、周囲の人に何か言ってやりたい、邪魔したと言ふような気持ちになってきますね。一人の悩み事が自分でどうしようもなくなり、いらいらして外へ影響を与えていくのですが、自分の気持ちをどうやってコントロールするのかがポイントですね。まずはちょっとした悩みは抱え込まないようにして、何時も心を晴れやかにしていることではないのでしょうか。ちょっと雲がかかってきたら、心にテルテル坊主を下げて雲を払いましょう。そして、明るく元気に希望をもって、毎日を過ごしてみたいかがでしょうか。

駄目だから暗い感じでも、決して望む方へは物事は進みません。会う人誰にでも明るく挨拶を交わして、笑顔でいられれば、なんとなく自分の心も晴れ晴れしてくるものです。暗いままでいれば、元気で明るい人、商売も中身のある良い話しがそこまで来ても、近寄ってくるはずがありません。常に自分から太陽のように明るい気持ちと笑顔を振り撒いていれば、自然に周囲が明るい空気に包まれていくように思います。

でも出来ないなんて言っていては、どうして問題解決になってくるのでしょうか。人任せにしないで、自分から道を切り開くしかありません。「あの人がかうだから。内の家内が・・・。」などと自分以外の人のせいにしたところで上手く事が運ぶでしょうか。それはありませんが、その相手になる方が自分の思う方向になってもらうには自分がどう動いたらその人が変わるのかを考えてみてはいかがでしょうか。つまり、自分が無理に相手を変えるのではなく、あたたかい心を持ってその人の立場を理解し、ふれあいを持っていく中に間違いなく変わっていくはずですよ。

こんな話があります。子供が人参を嫌い絶対になんかどうやっても食べることがなく困っていた母親が、人参を擂りつぶしカレーにそっと入れたら、「お母さん、今日のカレーは美味しいね。」と言ってお変わりをしたということです。その後は、勿論、人参大好きになったのは言うまでもありません。いかが

でしょうか。こんな考え方でみんな楽しく生活をしていたら、景気も良くなり、世の中も落ち着いた雰囲気になってくるのではないのでしょうか。

人間は一人では生きられない。「人」という字は他人に支えてもらうという意味があると聞いたことがあります。人との出会いの大切さを改めて感じています。自分も相手を信用し、相手からも信用、信頼してもらえる自分をどう築いていくのかが、今の時代を生き残るポイントではないかと改めて感じさせられ、雨にぬれた紫陽花をポーッと眺めています。

福島県二本松市岳温泉1丁目1番地

庭園の宿 松溪苑

代表取締役社長 佐藤 俊夫